

西国巡礼慈悲の道

西国第二十三番

応頂山

勝尾寺

自然が語る

貫主 小嶋秀算

世事に忙殺される。それは人の宿命でもある。ならばこそ、自然の中に身を置き、その言葉を素直に聞くことを心懸けたい。

西国霊場は、自然と対峙する場である。

そこは、ひとつの大きな霊域であり、一步足を踏み入れれば、霊気が全身を包む。そしてまた、雄大な自然が人の五感に訴える。

決して自然を、木だから、花だから、石だからと、固

定して見てはならない。石

も四季の中でその表情を変える。草木も昼夜でその趣を変える。一木一草にも命がある。その生けるさまを、

人は無心に感ずべきである。気負わず、銜わず、心身

を静かに浮遊させれば、自然の中から語りかけてくる言葉がある。地形に逆らわず繁る木の姿、ひっそりと咲く花の姿、風雪に耐える樹木の姿。

それはいかなる言葉より

も雄弁に、人に語る。そして人も自然の一部として、その中に身を置き、草木も水も石も、そして人間も宇宙の中のひとつであることを知るべきである。

人の営為は、まずそこから始まる。

そして、自然は日々変化する。再度この寺々を訪れたとき、また異なる自然の声が訪れる人々を包むだろう。

その繰り返しの中にこそ、人は自らを発見してゆくのである。

「自らを発見する」何とも簡単そうで難しい。この発見は理屈なく、説明なく、ただただ無心に巡礼を繰り返す、自然の中に身を置き、自然と合体したときに得ら

れるものであり、これこそが信仰の第一歩である。

観音巡礼の素晴らしさと、そこで得る歓喜を体得してほしいものである。



西国三十三所礼所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

この「西国巡礼慈悲の道」は、納経の際に1枚ずつ受け取って頂き、表紙をつけると1冊の法話集になります。

西国第二十三番

応頂山

勝尾寺

かつおうじ

真言宗

御本尊／十一面千手観世音菩薩 開基／善仲・善算

おもくとも つみにはのりの かちおでら

ほとけをたのむ みこそやすけれ



観音風光

新大阪駅から車で約30分と都心に近く、古くより「勝運の寺」として信仰され、雄大な自然が残る境内には春は桜、シャクナゲ、夏は紫陽花、秋は紅葉の名所として知られ、自然の御利益も含め、癒しの寺として、日々参拝者が絶えない。

主な年中行事

一月一日～三日	初詣特別柴燈大護摩
一月一日～五日間	新年勝運祈願
三月十八日より	七福詣り
四月中旬より	春季彼岸法要
四月中旬～五月中旬	桜まつり
五月初旬	春季水子大法要
六月初旬	シャクナゲ祭
六月一日より	あじさい祭
八月十三日～十五日	施餓鬼・盆供法要
九月二十日より	秋季彼岸法要
十月中旬～十一月中旬	秋季水子大法要
十一月初旬	もみじ祭

〒562-8508 大阪府箕面市勝尾寺

TEL 072-721-7010(代)

納経時間 午前8時～午後5時

(土曜日は午後5時30分まで、日曜祝日は午後6時まで)

仏教用語一口解説

不両舌とは

「二枚舌を言ってはならない。」という意味。影で告げ口をしたり、人の秘密をばらしたり、双方に別々にそれぞれ都合の良いことを告げ、両者の仲を裂き争わせる行為は、最も恥ずべき行為です。人は周囲の人との関わりの中で恩恵を受けて日々生活しています。心の通った良い仲間の輪が大切なのです。人に思いやりのある言葉や行動を心掛けたいものです。